

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL.025-234-6781~6783

## 新年 謹賀

亦

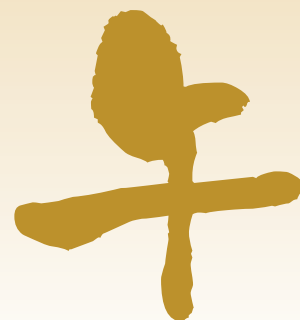


備

神



駿



2014年干支「午」（新潟護国神社の巨大絵馬）

### 目次

- |  |  |
|--|--|
| ◆年頭の御挨拶 会長 今井 長司 ……………(2)  | ◆畜産共進会への褒賞授与 ……………(8)  |
| ◆口蹄疫の防疫対策を再確認！ ……………(3)<br>～生産者段階の防疫演習を実施～                           | ◆声のコーナー ……………(7)<br>「ジェラートへの挑戦」<br>酪農経営：新発田市菅谷 中野 美代子<br>「牛飼いに嫁いで」<br>肉用牛経営：長岡市山古志東竹沢 関 裕子 |
| ◆安心農場を新たに13農場認定！ ……………(3)<br>～畜産安心ブランド認定委員会を開催～                      | ◆畜産安心ブランド生産農場だより ……………(8)<br>南魚沼市：池田酪農舎 池田 隆良  |
| ◆農場の防疫対策はおこたりにく！ ……………(4)<br>～海外で口蹄疫、アフリカ豚コレラ、国内<br>で豚流行性下痢が発生しています～ | ◆畜産物市況 ……………(8)  |
| ◆にいがた和牛推進協議会設立十周年記念大会開催 …(5)   | ◆お知らせ ……………(8)<br>畜産経営改善セミナーを開催します！  |
| ◆厳選にいがた和牛の基準を決定！ ……………(6)  | ◆編集後記 ……………(8)   |

# 年頭の御挨拶



公益社団法人新潟県畜産協会  
会長 今井 長司

新年明けましておめでとうございます。

日ごろ、皆様方には当協会の業務推進に格別の御支援、御協力を賜り心から感謝申し上げます。

平成26年という新しい年を迎えるにあたり、一言年頭の御挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、夏は各地で最高気温が40℃を超える記録的な猛暑となったほか、度重なる集中豪雨が発生するなど、異常気象となりましたが、被害に遭われた方々には改めてお見舞いを申し上げます。

経済面では第2次安倍内閣が掲げた経済政策であるアベノミクス効果により5月には4年ぶりに1ドル100円台の円安となり、日経平均株価も16,000円台に上昇した反面、輸入穀物価格の高騰、生活必需品の値上げが相次ぎ、景気回復を実感できない状況が続いております。

また、成長戦略として、参加を正式に表明した環太平洋経済連携協定（TPP）については、昨年末に開催された閣僚会合では交渉妥結を断念し、本年から交渉を再開することになっております。引き続き、関係者一丸となって農産物重要5品目を関税撤廃の対象から除外するよう求めていく必要があります。

一方、一流ホテル、レストランなどで食品の偽装表示・不正表示が社会問題化しましたが、食のブランドを偽装し消費者を欺くものでした。県産畜産物に対する消費者の信頼を確かなものとするためにも、関係団体等と力を合わせ

ながら情報発信に取り組んでいくことが重要と考えております。

さて、畜産を取り巻く情勢ですが、畜産物の取引価格が全ての畜種で上昇傾向にあるものの、配合飼料価格が高止まりしているため、依然として厳しい経営状況が続いております。このような状況を反映し、農林水産省が昨年末に公表した平成26年度指定食肉の安定価格等の畜産物価格は、全ての品目で引き上げとなりました。

加えて、本年4月からは消費税率が8%に引き上げられることから、畜産物需要が停滞しないよう努めていく必要があります。

政府は、昨年末に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を決定し、経営所得安定対策の見直しにより水田フル活用を進め、飼料用米などの本作化を明確にしました。この機会を捉え、畜産経営での利用を推進し、生産コストの低減、収益性の向上に結びつけ、力強い経営を育てていくことがより重要となっております。

当協会では、これらの情勢を踏まえ、行政と連携して所得向上対策を始め、価格安定対策、家畜衛生対策等に職員一丸となって取り組んでまいりますので、一層の御支援をお願いいたします。

最後に、畜産経営者、会員の皆様の御健勝と御発展を祈念申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

## 口蹄疫の防疫対策を再確認！ ～ 生産者段階の防疫演習を実施 ～

口蹄疫等の悪性家畜伝染病に対しては、国家防疫の観点から家畜保健衛生所等を中心とした防疫措置の強化が図られてきていますが、この国家防疫と整合性のある強化が不可欠な自衛防疫については、生産者自らによる地域ぐるみでの初動防疫活動を関係者と共通認識の下で取り組むことが重要となります。

当協会では、県内2か所で地域の生産者を対象にした防疫演習を実施し、防疫の3原則「発生予防」、「早期発見・通報」及び「迅速・的確な初動」を机上演習で確認するとともに、実際の資材を用いて消毒液作成や踏み込み消毒槽の設置と車両消毒等の実地演習を行いました。

第1回目は、11月8日、北魚沼農業協同組合藪神支店において、同組合酪農組合の生産者16名等24名の参加で、中越家畜保健衛生所職員に講師をお願いして実施しました。

第2回目は、11月21日、新津さつき農業協同組合東部営農経済センターを会場に、同組合酪農部会員9名等16名の参加で、中央家畜保健衛生所職員を講師に実施しました。

出席した生産者は、平成22年に宮崎県で発生した口蹄疫の伝播の速さに改めて脅威を感じ、発生農場では72時間以内に防疫措置を完了させる迅速な初動防疫の重要性を再認識しました。また、病原体の侵入防止には飼養衛生管理基準に基づく基本的な対策の励行が肝心と、帰宅後は早速、演習資材を利用して消石灰と逆性石けん消毒薬の踏み込み消毒槽を設置しようと話していました。

なお、この防疫演習は、本年度からの新規事業である地域自衛防疫強化特別対策事業の一環で、年度内にもう1か所下越地域で実施することとしています。



JA 北魚沼における防疫演習 (H25.11.8)

## 安心農場を新たに13農場認定！ ～ 畜産安心ブランド認定委員会を開催 ～

当協会は、県畜産課の事業と連携し、安全・安心な畜産物の提供対策としてHACCPの考え方に基づく衛生管理手法を導入した農場を、毎年「畜産安心ブランド生産農場」として認定してきました。

平成15年度のクリーンポーク（豚）認定からスタートし、牛、鶏も加えて本年度で11年目です。

本年度は、管理獣医師及び家畜保健衛生所等の指導により飼養衛生管理プログラムや各種記録簿を整備した乳用牛5農場、肉用牛4農場、豚2農場、採卵鶏1農場及び肉用鶏（にいがた地鶏）1農場、計13農場から認定申請がありました。

認定申請を11月18日までに受理した後、まず、現地調査を実施しました。今年は、4日間にわたり、認定委員会の楠原征治委員長から各農場の飼養衛生管理状況を実際にチェックしていただきました。厳しい畜産情勢が続いていますが、各農場は生産性向上と生産物の品質向上に努力されており、また、何よりも、後継者が意欲的に取り組んでいる農場が多くて今後の発展が期待されます。

12月20日、新潟県自治会館において、学識経験者、消費者代表、流通関係者、生産者団体及び県機関で構成されている畜産安心ブランド認定委員会を開催して、申請農場の飼養衛生管理実施状況等について審査をいただいた結果、全ての農場が認定基準に適合していると判断されました。協会長は、直ちに13農場の認定を決定し、この結果、下表のとおり、認定農場数は244戸となり、県内畜産農家の42%が安心農場になりました。関係者の皆様には、認定農場の信頼確保のため、今後ともご指導をよろしくお願いします。

### 認定農場数と認定率（H25年12月20日現在）

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	63	77	61	23	20	244
(%)	(25)	(55)	(43)	(64)	(95)	(42)



楠原委員長による現地調査 (H25.12.9)

# 農場の防疫対策はおこたりにく！

## ～海外で口蹄疫、アフリカ豚コレラ、国内で豚流行性下痢が発生しています～

### 新潟県農林水産部畜産課

口蹄疫は、国内での発生は平成22年8月以降確認されていないものの、ロシア、中国、台湾、モンゴル等の近隣諸国において今年度も発生しています。また、ロシアのソチ周辺のコーカサス地方等では、アフリカ豚コレラの発生が継続しています。春節や2月の冬季オリンピックを迎え、アジア地域における人・物の移動やロシア等への海外渡航者が増加することが見込まれ、日本への口蹄疫、アフリカ豚コレラ等の侵入リスクが高まっています。

国内では、平成25年10月から届出伝染病の豚流行性下痢が継続的に発生しています。本病の臨床症状は、水様性下痢を主徴とし、すべての日齢の豚で下痢を起こします。発症率と致死率は哺乳豚で高く、日齢が進むに従って低下します。本病は、糞便を介して直接的又は間接的に経口感染するので、養豚場の飼養衛生管理に何らかの不十分な点がある場合には、農場内にウイルスの侵入を許してしまいます。また、中国、韓国等の近隣諸国やアメリカでも発生しており、海外からの侵入にも注意しなければなりません。

豚流行性下痢 届出状況(平成26年1月4日午後4時時点)

県	地域	発生累計	届出月日		飼養頭数
			初発	最終	
沖縄県	本島中央部	1例	H25.10.28		491
茨城県	県央部	2例	H25.11.15	H25.11.25	3,385
鹿児島県	大隅地区	42例	H25.12.06	H26.01.04	113,062
宮崎県	県南部 県西部	7例	H25.12.09	H26.01.04	10,252
合計	4 県	52例	H25.10.28	H26.01.04	127,190

口蹄疫等の疾病発生を防ぐためには、飼養衛生管理基準の遵守が重要となります。特に、「農場（衛生管理区域）への病原体の持込みの防止」、「野生動物等からの病原体の侵入防止」を徹底してください。また、家畜に異常が確認された場合には速やかに家畜保健衛生所に通報してください。

冬期は、病原体が長期間生存しやすく、低温や凍結により消毒効果が低下するため、疾病がまん延しやすい時期です。消毒薬の特性を踏まえ、正しい濃度の消毒薬を使用し、疾病発生の防止に努めましょう。

#### 【豚流行性下痢ウイルスに効果のある消毒薬】

		4%炭酸ナトリウム	ヨウ素系	塩素系	アルデヒド系	複 合	逆性石けん※
1	車体の洗浄	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	○
	幌（おおい）	○	× (着色)	○	○	○	○
2	タイヤ	○	○	○	○	○	○
	タイヤハウス	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	○
3	エンジンルーム	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	○
4	コックピット フロアーマット	○	○	○	○	○	○
	ペダル類	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	○
	その他 (金属を除く)	× (析出)	× (着色)	○	○	○	○
	その他（金属）	× (析出)	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	○

※表中太枠内の消毒薬は豚流行性下痢ウイルス及び口蹄疫ウイルスに効果のある消毒薬であり、太枠外の逆性石けんは口蹄疫の消毒には不適である。

〔農林水産省資料〕

# にいがた和牛推進協議会設立十周年記念大会を開催

にいがた和牛推進協議会

昨年11月8日に新潟市内のホテルにおいて、「にいがた和牛推進協議会設立十周年記念大会」を開催いたしました。

この大会は、協議会設立十周年の節目を祝うとともに、関係者の銘柄確立に対する一層の意識の高揚、一般消費者への知名度の向上と消費拡大をめざして、会員並びに新潟県畜産振興協議会の支援を受け、関係者及び一般消費者多数の皆様のご参加をいただき盛会裏に開催することができました。

## ○ 第一部 記念式典

当協議会の吉見副会長（全農にいがた県本部長）は開会のあいさつで、県内外でようやく「にいがた和牛」の品質の高さが認知されつつある状況となった、これまでの十年をステップに今後一層の「にいがた和牛」ブランドの強化に努めていくと述べました。

来賓の森 邦雄新潟県副知事は祝辞で、他県産との違いを打ち出していくことが重要、関係者一丸となってブランド力の強化を図っていくことが必要と述べられました。

続いて、これまでの協議会の活動を振り返り、ブランド化の効果、今後の課題などを報告の後、更なるブランド力の強化を目指す決意表明を行いました。

また、協議会の発展に貢献された功労者の表彰では、生産振興、販売拡大、宣伝広報の各部門計15名に吉見副会長から表彰状又は感謝状と記念品を贈呈しました。



祝辞（森 新潟県副知事）

## ○ 第二部 記念祝賀会

記念祝賀会には、第一部の記念式典参加者に、抽選で招待の一般消費者10組20名様も加わり、170名を超える大勢の方からご参加をいただきました。

ご来場の皆様にとことん「にいがた和牛」を味わっていただくこととして、最上級の「にいがた和牛」を用意し、サーロイン鉄板焼き他5種類の料理に加え、新潟県産野菜等を使用した5種類の料理も併せて提供し、皆様に「にいがた和牛」の美味しさを堪能していただきました。

また、この祝賀会においてイメージキャラクター「ニーモ」のお披露目と、「にいがた和牛の日」の制定を発表しました。

## ○ イメージキャラクター「ニーモ」誕生

にいがた和牛のイメージアップと消費拡大を図るため、協議会設立十周年を機にイメージキャラクターを定めることとして、全国に公募したところ、応募期限の昨年9月末までに県内外の121名から144点の素晴らしい作品が寄せられました。

当協議会の幹事会で慎重審査の結果、イメージキャラクター採用作品1点を次のとおり決定しました。

名前は「ニーモ」です。よろしくお願いします。



○作者

新潟デザイン専門学校生  
長谷川 実季さん  
(新発田市在住)

## ○ 8月3日は「にいがた和牛の日」発表

毎年8月3日を「にいがた和牛の日」とすることになりました。

平成19年8月3日に特許庁長官から「商標登録」が認められたことを記念するもので、夏場の牛肉の需要期に向け、会員の卸4社並びにJAグループによる特売イベント等の開催により、「にいがた和牛」の消費拡大に期待しています。

## 厳選にいがた和牛の基準を決定！

にいがた和牛推進協議会では、新潟県の補助事業「にいがた食物語」ブランド推進事業により、検討委員会を設けて、にいがた和牛厳選商品の創出と基準の策定を行いました。

下記のように、これまでの「にいがた和牛」の要件を満たした肥育牛の中から、さらに高品質で安心な希少性の高い「厳選にいがた和牛」を消費者に提供することにより、一層のブランド化の推進を目指しています。

昨年11月27日から12月3日まで、三越銀座店で開催された「新潟フェア」においてこの「厳選にいがた和牛」を試験的に販売しましたが、今後の取扱方法については、協議会内で検討していきますので、是非、「厳選にいがた和牛」をご賞味いただきますようお願いいたします。

○ にいがた和牛の要件を満たし、かつ、次の基準を全てクリアするものとする。

☆ 枝肉品質規格等級がA5

☆ 脂肪交雑基準（BMS）が9以上

☆ クリーンビーフ生産農場の牛肉

<にいがた和牛の要件>

- ・ 黒毛和種の去勢牛又は、未經産牛であり血統が明確であるもの
- ・ 県内で肥育され最長飼養地が県内であるもの
- ・ 品質規格等級において、「A」「B」3等級以上のもの
- ・ 家畜個体識別システムにより、生産から出荷までの移動履歴の確認ができるもの



新潟フェアでの「厳選にいがた和牛」販売

## 畜産共進会への褒賞授与

当協会では、本県の畜産振興に寄与するため、主に県下一円又は市町村の範囲以上を参加地域とする畜産共進会等において、優れた成績を収めた方に対し、賞状及び副賞を交付しております。

平成25年4月から12月までに11ヶ所の共進会等で交付いたしました。結果は下記のとおりです。

### 賞状及び副賞を交付した共進会等

(開催日順、敬称略)

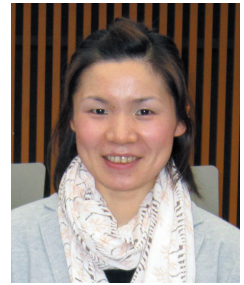
行事名	主催者	賞名	受賞者名	住所
第39回全佐渡ブラックアンドホワイトショー	佐渡ホルスタイン改良青年同志会	最優秀賞(未經産牛)	金子知樹	佐渡市
第20回JA佐渡和牛共進会	佐渡農業協同組合	優等賞(未經産牛)(経産牛)	山登忠男	佐渡市
第38回津南町肉豚枝肉共励会	津南町養豚組合	最優秀賞	島田福一	中魚沼郡津南町
新発田産・くびき産にいがた和牛枝肉研究会	北越後農業協同組合	最優秀賞	高橋勝美	十日町市
	えちご上越農協協同組合肉用牛部会			
第19回新潟県養豚協会肉豚枝肉共進会	新潟県養豚協会	優秀賞	尙姿農場 田中 勤	十日町市
		優秀賞	相馬成実	新発田市
		ベスト枝肉賞	長沢 潤	新潟市南区
第13回十日町農業協同組合養豚枝肉共進会	十日町農業協同組合	最優秀賞	生越利男	十日町市
	十日町農業協同組合養豚部会	優秀賞	平野清志	十日町市
平成25年度新潟県子牛共進会	全国農業協同組合連合会新潟県本部	最優秀賞(去勢の部)	涌井善雄	上越市
		最優秀賞	萬羽博文	上越市
		優秀賞(1席)	時田 正	村上市
第58回新潟県肥育牛求評共励会	全国農業協同組合連合会新潟県本部	優秀賞(2席)	山賀治彦	村上市
		優秀賞(豚)	長沢一朗	新潟市南区
平成25年度白根地域畜産振興協議会	新潟県家畜商協同組合	優秀賞(F1の部)1席	鎌田正好	新発田市
		優秀賞(F1の部)2席	斎藤 清	新発田市
		優秀賞(F1の部)3席	五十嵐正平	新発田市
第42回中之島地域畜産共進会	中之島地域畜産振興協議会	最優秀賞(肉用牛)	田邊正男	長岡市



酪農経営  
新発田市菅谷  
中野 美代子



肉用牛経営  
長岡市山古志東竹沢  
関 裕子



## 『ジェラートへの挑戦』

2010年7月、月岡わくわくファーム内にジェラート店「なかの牧場natural\*gelate」をオープンしました。それまでは、酪農は手伝わず、子育て一本。子育てが一段落したら、酪農を手伝うことになるのかな…と漠然ととらえていました。

そんな中、新たにできる直売所内にテナントとしてジェラート店をやらないかとお話を頂きました。全く未知の世界、不安でいっぱいでした。でも、主人と父母が手塩にかけて育てた牛たちの牛乳を味わってもらえるせっかくのチャンス。牛乳の味がダイレクトに伝わるジェラートはうってつけだと思い、挑戦することになりました。

もちろん、合わせる素材は、出来るだけ新鮮な地元の農産物にしたい。最初は手探り状態。地元の果樹園や知り合いの農家、いろんなツテを辿って、農家さんを紹介して頂いたりしました。3年が経過した今、やっと少しずつですが安定して農産物を仕入れることができるようになってきました。

そして、3年目の今年、新たな商品「アイスケーキ」に挑戦することにしました。大きさは、家庭用冷凍庫に入ることが絶対条件なので12cmと小さ目。



お味は、お任せでも、お客様に全て選んでもらうこともできるようにしました。

まずは、知ってもらうこと。友達やブログ、facebookで宣伝。少しずつ、地道にですが、注文が増えています。お客様からも、うれしいご感想を頂くことも。お客様の幸せのお手伝い出来ること、すごく幸せだし、やり甲斐を感じます。

今後は店舗での販売はもちろん、イベント出店、旅館やレストランへの卸、アイスケーキの販売をさらに増やして行けるよう、もっと頑張っていきたいと思っています。

## 『牛飼いに嫁いで』

雪の降らない茨城から新潟の豪雪地、山古志に嫁いで8年が過ぎました。中越地震の1年後に結婚し、新婚生活は仮設住宅、長女もそこで1年過ごしました。

「山古志に帰って牛飼いをする」という主人の揺ぎない想いを常に感じていたので、いざ帰るとなった時も特に戸惑いはありませんでした。（豪雪地、しかも山での暮らしということで不安はありましたが。）

平成19年の年の瀬から始まった山古志での生活は、雪、雪、雪…！！！！とにかく雪の量に圧倒されていました。主人は牛飼いの仕事というより牛舎周りの除雪に追われて泊り込みの日もありました。雪の無い時期も一人で80頭の世話はやる事が多く、手伝いにも行きますが3人の子供に恵まれたため中々思うように牛舎へ通えないのが現状です。そんな中、経理を勉強して主人の負担を軽くすることが私の仕事でした。今では主人が牛の飼育管理のみに専念できるように経理全般を担当しています。

（おかげで目が眩むほど高い子牛を買ってきたりとのびのび牛飼いでしてくれています。笑）

また、山古志の伝統行事「牛の角突き」や各種イベントで串焼きや精肉の販売もしています。これはお客様から直接感想を聞けるのでとても励みになっています。また、東京出荷した上場日には主人と一緒に肉質の出来を確認しに市場へ出向いています。

生き物相手の仕事は休みが無く過酷な面もありますが、子供達に命・食育を教えられる貴重な仕事でもあります。子牛が産まれる時はなるべく連れて行き命の誕生を見せるようにしています。パパの頑張る姿を見て上2人の娘も牛舎へ行き手伝う時もあります。初めは近づくのも怖がっていましたが、今では触ったり餌をあげたりと逞しく育っています。

まさかこのような人生を歩むことになるとは想像もしていませんでしたが、温かい両親と元気な子供達、主人と共にこの大自然の中で生活していけることに幸せを感じています。これからも家族で支え合って、良い牛作りに努めていきたいです。

# 畜産安心ブランド生産農場だより

南魚沼市：池田酪農舎 池田 隆良

私は、昭和53年から南魚沼市（旧大和町）で酪農を営み、妻と二人で経産牛30頭、育成牛12頭を飼育しています。

私達は、健康な牛から良質な生乳を安定的に生産するように、フリーストール牛舎でのびのびと運動させ、粗飼料はビタミン豊富な南魚沼産コシヒカリの生稲わらをラッピングして収穫、給与しています。

また、平成22年から、乳用牛群検定事業に参加し、毎月、牛の個体毎の成績を測定記録し、牛の健康管理や優良な後継牛の確保に役立てています。

生産したクリーンミルク（生乳）は、近隣の酪農家と設立した株式会社ヤミーから「ジェラート」や「とっとこプリン」などのスイーツとして、県内外のお客様にお届けし、たくさんの支持をいただいています。そしてお客様の「新鮮な牛乳が飲みたい」というニーズに応え、店舗内で「ホットミルク」の提供を開始しました。風味豊かな牛乳は、お客様から大変喜ばれています。これらが実現したのは、クリーンミルク生産農場に認定されたことによる安全・安心のバックアップがあるからだと思っています。

今後も、地域の酪農家と共に、お客様に喜んでいただける品質の生乳生産に努め、牛とお客様、そして家族が健康で過ごせるような酪農経営を継続していきたいと考えています。



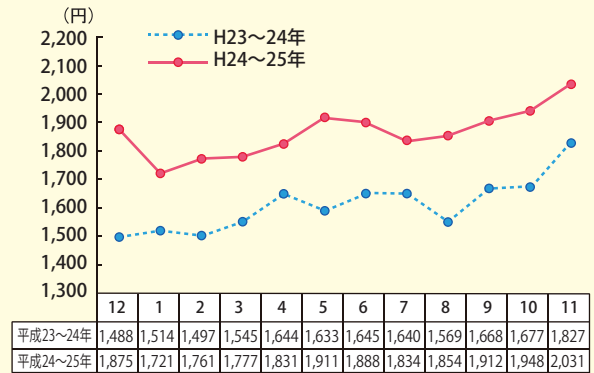
## 「畜産経営改善セミナー」を開催します！

当協会は、畜産生産者及び関係者を対象とした畜産経営改善セミナーを開催します。多数の参加をお待ちしています。

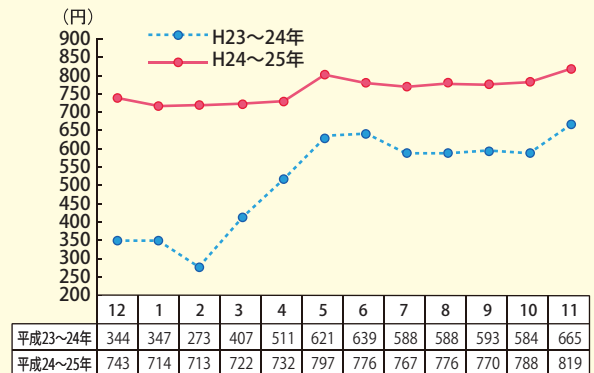
- ・日時 2月7日（金）13:30～15:30
- ・会場 全農にいがた県本部 大会議室
- ・内容 講演と情報提供  
(詳しくは、JA等にお尋ねください。)

# 畜産物市況

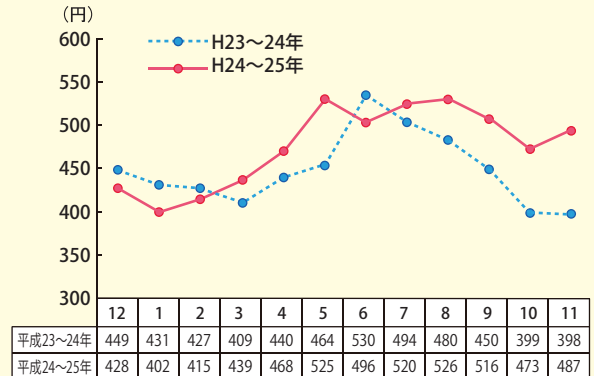
## 牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



## 牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



## 豚枝肉相場・上(東京市場)



## 編集後記

穏やかな天候で新年の幕開けとなりましたが、畜産を取り巻く環境は、昨年来の配合飼料価格や諸材料費の高止まりに加えて、ヤマ場を迎えたTPP交渉の成り行き等、懸念材料は多々ありますが、今後の畜産経営を「ウマ」く発展させるには、地道にコスト削減、衛生管理の徹底等に取り組むことが第一のポイントではないかと感じています。

経済成長の追い風を受けて、畜産物卸売価格の上昇・安定基調が今後も継続し、畜産に携わる皆さんに、幸多い一年となることを祈念申し上げます。(鈴木 記)